

第7回阪南地区薬業連携研修会アンケート結果集計

日時：平成25年10月12日（土）15:00～17:00

場所：阪南市民病院 7階さつきホール

参加者：計 35 名（薬剤師会 23 名・阪南市民病院 薬剤部 6 名・その他 6 名）

【レビュー】保険調剤薬局における医療用麻薬の使用の現状に関して

泉南薬剤師会 カイセイ薬局 松村 祐次

A よくわかった	6名
B だいたいわかった	12名
C ふつう	7名
D あまりよくわからなかった	1名
E わからなかった	

感想

- ・ 経験がなく、元知識もないので、不動態在庫問題は理解できました。
- ・ 阪南市民病院との連携は前向きに検討会などを持ってはどうかと思います。
- ・ 発表することで、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 地域での問題点や保険薬局での困った事など、実際の例など良く分かりました。
- ・ 講演で紹介された患者様の情報やバックグラウンドをもう少し聞いてみたかったです。
- ・ これからは在宅で治療を行う患者さんが増えてくると思いました。こういった患者さんには、薬局薬剤師が積極的に関わっていかねばならないと感じました。レスキュードーズやオピオイドに対する知識が必要になってくるということを思いました。
- ・ 現状の薬局の状況がとても良く分かりました。
- ・ 大阪府で無菌製剤を調剤できる施設が思っていたより少なかったことにとても驚きました。
- ・ レスキューの使い方が良く分かった。
- ・ とても共感できる内容でした。
- ・ 少し喋り方が早いと思いました。
- ・ 薬局では、麻薬を処方することが少なく、急に処方箋が来た時のために、今回のような勉強会は定期的に行う必要があると感じた。今後、在宅の患者さんが増えると予想されることから、薬局間で協力してでも麻薬処方ができるように対応する必要がある。
- ・ 前の症例発表の時にオピオイドローテーションやレスキューや換算日について説明があったので、理解ができました。薬局でどのように調剤し、患者に服薬指導しているのかわかって良かったです。薬局は在庫が多くなると成り立たないので、在庫不足になった時にどう対処するべきか難しいなと感じました。

【講演】緩和ケアに用いられる薬の基本～症例を通じて学ぶ～

阪南市民病院 薬剤部 主任 日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師
町谷 安紀

- | | | |
|---|--------------|-----|
| A | よくわかった | 13名 |
| B | だいたいわかった | 11名 |
| C | ふつう | |
| D | あまりよくわからなかった | |
| E | わからなかった | |

- ・明確でわかりやすい御講演ありがとうございました。
- ・とても良く分かった。すぐ使える情報でとてもうれしいです。
- ・自分が癌に罹患し、がんの痛みの負荷があったとして、医師・薬剤師がどう対応してくれるかなと想像して、聴講しました。多少は学会誌で目にすることがありますが、医療用麻薬は怖くないという結論がよくわかりました。
- ・麻薬と聞いただけで嫌悪を示す患者にどう納得させたら良いか（素人に説明する文言・資料などを教えてください。）→まずは医療用麻薬に対して、なぜ嫌悪を示すかどうかを傾聴します。過去に1例だけでも嫌だと家族の方の意向がある時がありましたが、その方も、後に使用するようになりました。講演では使用しませんでした。下記のような考え方になります。（薬剤部 町谷記載）

脳内の快感と不快感のバランス

痛みのない人では



医療用麻薬で依存症や中毒になるの？

痛みのある人では



→持続的に強い痛みがある患者様は、医療用麻薬にも中毒になりにくいと考えられています。

- ・オキシコンチンのゴーストピルについて理解しました。
 - ・レスキューの使用方法が理解できました。
 - ・グラフや表などで実用的な情報もあり、分かりやすく良かったです。
 - ・病院での緩和ケアにおける考え方などがわかり勉強になりました。処方例などがあり分かりやすかったです。
 - ・レスキューの使い方、また増量する方法など知らない事があり、勉強になりました。
- 町谷先生ありがとうございました。
- ・明日から使える知識がついたと思います。ありがとうございました。

- ・オピオイドについて少しですが理解できたと思います。学校の授業でも習いますが、実際の医療現場で使われている薬や疼痛管理の仕方などについて知る事ができました。
- ・緩和ケアを基本から教えて頂けたので、とても勉強になりました。特に関心を持ったのは事としては、オピオイドローテーションを行う際に、剤形を変更する時に一緒に考えることができるというお話です。緩和ケアという治療ではなく、QOL 向上を目指した医療なので、こういった考えが大切なんだなと感じました。
- ・モルヒネの換算表が良く分かる表でした。ありがとうございます。
- ・普段、麻薬処方に触れないので、勉強になりました。
- ・初めて聞く事が多く、理解が難しい。
- ・麻薬の基本についてよくわかった。また詳しく聞きたいと思います。
- ・当薬局では、現在麻薬調剤はありませんが、今後在宅業務が進んでくれば必要になってくると思います。
- ・がん患者の疼痛緩和を行う上で、患者さんに合わせて剤形を決めて疼痛コントロールをする必要があることを学んだ。それにより患者さんの QOL を向上させることができ、最後をむかえることができるのではないだろうか。
- ・緩和ケア、オピオイドの使い方について基本的な考え方を学びました。麻薬は使う量を間違えるととても怖いというイメージがありましたが、10 倍にして呼吸抑制なのでそれほど恐すぎることはないのかなと思いました。でもいくら計算しやすいとはいえオピオイドの換算を間違えると命に関わるので、間違えてはいけないことを学びました。
- ・自分は基礎の知識が十分ないので、帰ってから資料を良く読み、確認・理解したいと考えます。

今後企画して欲しい内容

- ・鎮痛補助剤についてお願いします。
- ・緩和薬物療法に関わる看護師さんの話も聞いてみたいです。
- ・糖尿病薬が色々発売され、どれをどの状態で使用するのか、実際の処方の方を知りたい。
- ・また機会があれば緩和ケアの話をして欲しい。

その他のご意見

- ・多職種協同による在宅医療の検討会をサラダホールで研修会が実施されましたが、その後薬剤師会としてどう進展しているのかをお聞きしたい。在宅医療を待っている患者の実態調査はどうなっているのか等も。

今年度も引き続き、泉佐野泉南医師会圏域における会議は行われています。昨年度のアンケートの結果、他職種同士の連携が必要であり、今後、より強固な連携を希望しているとの結果です。ただ、各職種とも、「連絡先の情報不足」「マンパワーの不足」「レスパイトサポート体制の不足」「時間的制約」等の課題も見えてきました。この結果を踏まえ、本年度は、熊取町多職種連携会議で作成した医療介護連携マニュアルをベースに医師会圏域の統一したマニュアルとして多職種マップ作成に取り組んでいるところです。また、熊取町で先行している多職種会議を各行政圏域で進めていくべく準備が進められています。先日は、泉南市においてケアマネが中心となり研修会が開かれたと聞いています。薬剤師会としましては、今年度も、研修会を開くべく調整しているところであります。

(泉南薬剤師会 会長 八田先生のご回答)

- ・京大などでは処方箋を A4 サイズにして、臨床検査値を印刷して薬剤師が服薬指導のエビデンスに活用する方法にするらしいが、阪南市民病院はいかがでしょうか？

処方箋に検査値を記載することで、薬剤の用量などの調整の確認には十分役立つと思いますが、実は検査値は、検査値を見る段階で、十分な患者様の背景の情報を得て、見なければ誤った捉えかたになってしまう事が多いです。つまり、単一にデータ良い、悪いという判断で見えてはいけないということです。故に、検査値だけで判断しない様に、薬剤師も検査値の見方を、患者様の背景の情報をしっかり得たうえで、トレーニングする必要があります。

また、現在阪南市民病院では、院外処方箋を、電子カルテとデータ連携した医事システムから出力しています。そのため、システムの変更に多大な費用が発生します。

以上2つの点から、今後、他の地域での有用性が認められ、効果を判断した上で検討していきたいと考えています。(薬剤部 町谷記載)

開催日について

木曜日 2名
土曜日 12名

アンケートの記載ありがとうございました。

次回の研修会は2014年2月を予定しています。御参加よろしくお願い致します。

阪南地区薬業連携推進協議会委員